

平成30年 6月14日現在

機関番号：32621

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16726

研究課題名(和文) 近世・現代南アジアにおける宗教と倫理：ガウディーヤ派の視点から

研究課題名(英文) Religion and Ethics in Early Modern and Modern South Asia: From the Perspective of Gaudiya Vaisnavism

研究代表者

置田 清和 (Okita, Kiyokazu)

上智大学・国際教養学部・助教

研究者番号：70708627

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：シンハブーパーラ(14世紀)著『ラサルナヴァスダーカラ』におけるラサ論の英訳作成；ルーパ(16世紀)著『ウッジヴァラニーラマニ』14章とジーヴァ(16世紀)の注釈書『ローチャナローチャニー』のテキスト校訂と英訳作成；ジーヴァ著『プリーティ・サンダルバ』110、111章の英訳作成；ヴィシュヴァナータ(17世紀)著『スヴァキーヤトヴァニラーサヴィチャーラ』の英訳作成を行った。以上の成果に基づいてルーパのラサ論の発展過程と、彼の思想の後代への影響を明確にすることが出来た。また最終年度にはオックスフォード大学で国際ワークショップを開催し、研究成果を広く発信することができた。

研究成果の概要(英文)：I produced (1) an English translation of the rasa section from Singabhupala's Rasarnavasudhakara (fourteenth century); (2) an English translation and a critical edition on the fourteenth chapter from Rupa's Ujjvalanilamani (sixteenth century) and Jiva's commentary (sixteenth century); (3) an English translation of Jiva's Pritisandarba, Chapters 110 and 111; (4) an English translation of Visvanatha Cakravarti's Svakiyatvanirasavicara. Based on the above mentioned research I was able to trace the development of Rupa's rasa theory as well as its impact on later thinkers. In the final year I organized an international workshop at Oxford University through which I was able to widely disseminate the research findings.

研究分野：インド古典文学

キーワード：サンスクリット文学 ヒンドゥー教神学 倫理 インド思想史 近世南アジア 写本研究 ベンガル地方 北インド

1. 研究開始当初の背景

19世紀以降欧米、日本で盛んになったサンスクリット文献学では12世紀以前の作品が主に研究の対象となってきた。また、現代南アジアを対象とした研究ではそのほとんどが19世紀以降を取り上げる。このような状況の原因の一つには英国植民地政府のムガル帝国批判が挙げられる。しかし近年ではSheldon Pollock(コロンビア大学)などが近世にも優れたサンスクリット作品が書かれ、近世を理解せずに現代南アジアを理解するのは不可能であることを指摘している。また、David Washbrook(ケンブリッジ大学)らは南アジアの現代化は英国植民地化によってもたらされたとする従来の歴史観を批判し、それはむしろムガル帝国期からの漸進的なものであるという修正主義を提唱している。これらの学術的背景から、サンスクリット文献による南アジア近世思想研究が火急のものとして認識されるようになってきている。

このような学問的潮流を踏まえ、申請者は近世南アジアで影響力のあったヴィシュヌ教、中でも神に対する熱狂的な信愛で有名なガウディーヤ派のサンスクリット文献に焦点を当てて研究してきた。開祖のチャイタンニヤ(16世紀)は乙女が若者を愛するように信徒は神を愛するべきと教えたが、彼の思想の独自性は婚外関係における恋愛感情を理想的であるとした点にあった。

博士課程研究ではこのように過激な教えを受け継ぐガウディーヤ派中期の思想家バラデーヴァ(18世紀)に焦点を当てた。当時北インドで最も有力なヒンドゥー王であったジャイ・シン2世はガウディーヤ派の強力なパトロンでもあった。しかし民への悪影響を懸念し、彼はガウディーヤ派が信仰を不倫における愛情と類似させて説くことを禁止しようとした。このような圧力に対してバラデーヴァがどのように対応したのか、彼のサンスクリット著作に基づいて研究した成果を *Hindu Theology in Early Modern South Asia* と題し、単著としてオックスフォード大学出版会から発表した。

日本学術振興会(PD、スタートアップ)ではガウディーヤ派初期の思想家、すなわちチャイタンニヤの直弟子ルーパ、ルーパの甥ジーヴァに焦点をあて、彼らがチャイタンニヤの教えの倫理的課題をどのように捉えていたのか追求した。その結果、ルーパが婚外関係説を肯定するのに対し、ジーヴァはその見解に譲歩しつつ最終的には婚外関係否定説の立場をとることが明らかになった。このようなガウディーヤ派初期における根本的な見解の相違が後代の思想家達にとっての論争の種となり、それは現代まで続いている。この論争の歴史的変遷を理解したいと思い、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究では近世(16～18世紀)・現代(19

世紀以降)南アジアにおける宗教と倫理の相克の歴史をヴィシュヌ教ガウディーヤ派に焦点を当て調査する。これにより、近世サンスクリット文献研究を底上げし、また南アジアにおける近世から現代への思想的繋がりを明示することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

ガウディーヤ派初期の思想家が現代に与えた影響を婚外関係の肯定、否定という観点から辿るため、下記の4項目について研究を行う：A. ガウディーヤ派初期(16世紀)の著者の思想解明；B. ガウディーヤ派中期(17～18世紀)の著者の思想解明；C. ガウディーヤ派後期(19～20世紀)の著者の思想解明；D. ムガル帝国期(16～18世紀)におけるイスラーム倫理観の解明。平成27年度は項目A,Bに重点をおく。平成28年度は項目C,Dに集中する。平成29年度は研究成果の出版準備と国際学会の開催に焦点を当てる。

4. 研究成果

【平成27年度】(1) オックスフォード大学ヒンドゥー教研究所において週に一度のサンスクリット講読会を開催。テキストにはバラデーヴァ・ヴィディヤブーシャナ(18世紀)の『タットヴァディーピカー』を使い、写本に基づいたテキスト校訂、英訳を試みた(4～6月)；(2) ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所のハルナガ・アイザックソン教授を訪問、シンハブーパーラ(14世紀)著『ラサルナヴァスダーカラ』についての読書会を2回開催(7月3～14日)；(3) ハイデルベルク大学南アジア研究所のアナンダ・ミシュラ博士を訪問、『バーガヴァタ・プラーナ』10巻33章27～36節に対するヴァツラヴァ(16世紀)の注釈書を英語に訳した(7月21日～29日)；(4) 京都大学文学研究科インド古典研究室の横地優子教授、ディワーカラ・アーチャールヤ准教授、ソームデーヴ・ヴァースデーヴァ特定外国語担当教授とともにルーパ・ゴースワミー(16世紀)著『ウッジヴァラニラマニ(燦蒼玉)』14章207～233節とジーヴァ・ゴースワミー(16世紀)の注釈書『照視界』の読書会を毎週一回行った(10月20日～11月10日)；(5) 京都大学文学研究科インド古典研究室の横地優子教授、ソームデーヴ・ヴァースデーヴァ特定外国語担当教授とともに読書会を開催(11月16日～3月6日)。ジーヴァ・ゴースワミー(16世紀)著『プリーティ・サンダルバ(愛についての論考)』111章の英訳を作成した；(6) シマンタ・ロイ氏(The Bangla Language Institute, Independent University Bangladesh)とともにヴリンダーヴァンダーサの『チョイトンノバガヴォト』、クリシュナダーサの『チョイトンノチョリタムリト』の一部をベンガル語から英訳した(2月2～19日)。

【平成28年度】(1) 京都大学文学研究科インド古典研究室の横地優子教授、ソームデーヴ・ヴァースデーヴァ特定外国語担当教授とともに読書会を開催(5月31日~7月28日)。ジーヴァ・ゴースワミー(16世紀)著『プリーティ・サンダルバ(愛についての論考)』110章の英訳を作成した;(2) 上記の読書会の成果を国際学会(マドラス大学、CPR Institute of Indological Research, インド、2017年1月6日~8日)において発表した;(3) スカイプを通してシマンタ・ロイ氏(The Bangla Language Institute, Independent University Bangladesh)とともに読書会を開催(4月24日~7月28日)、アキンチャナ・ダーサ(18世紀)の『ヴィヴァルタ・ヴィラーサ』第二章の英訳を作成;(4) スカイプを通してS.ブヴァネシュヴァリ博士(CPR Institute of Indological Research)とともに読書会を開催(2月4日~3月5日)。マドゥスダナ・サラスヴァティー(16世紀)の『パラマハンサ・プリヤー』の英訳を開始した;(5) 昨年度開催したジーヴァ・ゴースワミー著『プリーティ・サンダルバ』111章の読書会の成果を日本印度学仏教学会(2016年9月3日、東京大学)において発表した。また発表した論文を *Journal of Indian and Buddhist Studies* において出版した;(6) 平成27年度に開催した『チョイトンノ・バガヴォト』、『チョイトンノ・チョリトムリト』の読書会の成果を日本南アジア学会(9月25日、神戸市外国語大学)において発表した;(7) 1980年代に米国スミソニアン博物館が Matsya Project という企画のもとマイクロフィルム化したヴィシュヌ教関連著作の写本・刊本(計1679本)の一部をデジタル化した。

【平成29年度】(1) オックスフォード大学トリニティ・カレッジにおいて、Rembert Lutjeharm 博士(オックスフォード大学ヒンドゥー教研究所)と共に *The Building of Vrndavana* と題した国際ワークショップを開催した(9月2-3日)。米国、英国、フィンランド、インドから計10人の研究者を招待し発表を行ってもらい、これによってガウディーヤ派初期の発展の経緯について理解を深めることができた:
<https://buildingvrndavana.wordpress.com/>; (2) ガウディーヤ派初期を代表する思想家ルーパとジーヴァ(16世紀)、そして中期を代表するヴィシュヴァナータ(17世紀末・18世紀初頭)の著作に焦点をあて、それぞれの思想家がクリシュナ神と牧女達の関係についてどのような見解を持っていたのかを分析し、上述のワークショップにおいて発表した;(3) スカイプを通して週に一度 S. Bhuvaneshwari 博士(マドラス大学)とともに講読会を開催(2017年4月-2018年3月)。マドゥスダナ・サラスヴァティー

(16世紀)の『バーガヴァタ・プラーナ』1巻1章1~2節に対する注釈書の英訳を完了;(4) 28年度に続き Matsya Project のマイクロフィルムをデジタル化。29年度は小倉智史博士(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)の協力を得てより多くのマイクロフィルムをデジタル化することができた。デジタル化した写本・刊本のデータは小倉博士によって以下のサイトで公開されている:

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~ogura/project/matsya/index.html>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

① Okita, Kiyokazu, Ethics and Aesthetics in Early Modern South Asia: A Controversy surrounding the Bhagavata Purana Book X, *International Journal of Hindu Studies*, 査読有, 22:1, 2018, 25-43.

DOI: 10.1007/s11407-018-9223-7

② Okita, Kiyokazu, From Rasa to Bhaktirasa: The Development of A Devotional Aesthetic Theory in Early Modern South Asia, *The Journal of Indian and Buddhist Studies*, 査読有, 65:3, 2017, 1066-1072.

DOI: 10.4259/ibk.65.3_1066

③ Okita, Kiyokazu, A Vedantic Refutation of Buddhism in Eighteenth Century North India: The Tattvadipika of Baladeva Vidyabhusana, *Journal of Vaishnava Studies*, 査読有, 25:1, 2016, 153-162.

④ Okita, Kiyokazu, The Influence of Singabhupala II on Bengali Vaisnava Aesthetics, *The Journal of Indian and Buddhist Studies*, 査読有, 64:3, 2016, 1081-1087.

DOI: 10.4259/ibk.64.3_1081

⑤ Okita, Kiyokazu, Trialogue between Gaudiya Vaisnavism, Deep Ecology, and Catholicism, *Journal of Vaishnava Studies*, 査読有, 24:1, 2015, 191-204.

⑥ Okita, Kiyokazu, Book Review: Neelima Shukla-Bhatt. (2015). *Narasinha Mehta of Gujarat: A Legacy of Bhakti in Songs and Stories*. (Oxford: Oxford University Press), *International Journal of Asian Studies*, 13:2, 2016, 245-248.

DOI: 10.1017/S1479591416000127

[学会発表](計15件)

① Okita, Kiyokazu, A Match Made in Heaven? The Early Modern Views on Krsna's Relationship with the Gopis of Vrndavana,

Workshop: The Building of Vrndavana, 2017年、9月2日、オックスフォード (イギリス)

② Okita, Kiyokazu, The Number of Bhaktirasa-s: Jiva Gosvami's Pritisandarbha on Bhagavatapurana 10.43.17, The Bhagavata Purana: Its Histories, Philosophies, and Cultures 2017年1月7日、マドラス大学とCPR Institute of Indological Research、チェンナイ (インド)

③ Okita, Kiyokazu, Vaisnava Perceptions of Muslim Authority in Early Modern South Asia: Based on Bengali Hagiographies of Caitanya, Culture and Society in Early Modern South Asia: Cross-Linguistic Comparative Studies of Literary and Religious Texts, 2016年12月11日東京外国語大学本郷サテライト (東京都文京区)

④ Okita, Kiyokazu, Transcultural Dynamics in South Asian Religions Transcultural Dynamics of Asia and Europe: Mobility, Negotiation, and Transformation, 2016年9月26日京都大学 (京都府京都市)

⑤ Okita, Kiyokazu, Hindu-Muslim Encounters in Early Modern South Asia: According to Bengali Hagiographies of Caitanya, 日本南アジア学会第29回全国大会 2016年9月25日、神戸市外国語大学 (兵庫県神戸市)

⑥ Okita, Kiyokazu, From Rasa to Bhaktirasa: The Development of Devotional Aesthetic Theory in Early Modern South Asia, 日本印度学仏教学会第67回学術大会、2016年9月3日、東京大学 (東京都文京区)

⑦ Okita, Kiyokazu, Singing in Protest: Early Modern Hindu-Muslim Encounters in Bengali Hagiographies of Caitanya, Exploring Bhakti: Is Bhakti a Language of Power or of Protest? 2016年5月14日、イェール大学、ニューヘイブン (アメリカ合衆国)

⑧ 置田 清和、近世南アジアにおけるサンスクリット宗教詩：ヴィシュヌ教ベンガル派の視座から、総合仏教研究所公開講座、2016年1月7日、大正大学 (東京都豊島区)

⑨ Okita, Kiyokazu, A Middle Class Construction of Neo-Vaisnavism in Nineteenth Century Bengal: Bhaktivinoda Thakura's Commentary on the Brahmasamhita, The 4th International Congress of Bengal Studies, 2015年12月13日、東京外国語大学 (東京都府中市)

⑩ Okita, Kiyokazu, After Kashmir: Early Modern Sanskrit Aesthetic Theories in Andhra and Bengal International Workshop on Pre-Modern Kashmir 2015, 2015年9月24日、

京都大学 (京都府京都市)

⑪ Okita, Kiyokazu, The Karnataka Connection: Sinhabhupala II's Influence on Bengali Vaisnava Aesthetics, 日本印度学仏教学会第66回学術大会、2015年9月19日、高野山大学 (和歌山県伊都郡)

⑫ Okita, Kiyokazu, Salvation through Colorful Emotions: Aesthetics, Colorimetry, and Theology in Early Modern South Asia, The XXI World Congress of the International Association for the History of Religions, 2015年8月27日エルフルト (ドイツ)

⑬ Okita, Kiyokazu, The Karnataka Connection: The Influence of Sinhabhupala II on Bengali Vaisnava Aesthetics, 12th International Conference on Early Modern Literatures in North India, 2015年7月19日、ローザンヌ (スイス)

⑭ Okita, Kiyokazu, The Karnataka Connection: The Influence of Sinhabhupala II on Bengali Vaisnava Aesthetics, 16th World Sanskrit Conference, 2015年6月29日、バンコク (タイ)

⑮ Okita, Kiyokazu, Emotions in Hinduism: The Bhakti Traditions, Oxford Center for Hindu Studies Friends Event, 2015年6月6日、レスター (イギリス)

[図書] (計 3 件)

① Okita, Kiyokazu and others, Brill, Historicizing Emotions: Practices and Objects in India, China, and Japan, 2017, 100-112

② Okita, Kiyokazu and others, Harrassowitz Verlag, Adaptive Reuse in South Asian Literatures and Arts, 2017, 255-280

③ 置田 清和 他、インド文化事典、2017, 226-227

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1) 上智大学国際教養学部における個人プロフィール

https://www.sophia.ac.jp/eng/program/professors_Info/CC/OKITA_Kiyokazu.html

(2) 研究者個人サイト

<https://kiyookita.wordpress.com>

(3) 2017年9月開催の国際ワークショップのサイト

<https://buildingvrndavana.wordpress.com>

(4)

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~ogura/project/matsya/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

置田 清和 (OKITA, Kiyokazu)

上智大学・国際教養学部・助教

研究者番号：70708627

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()